

二〇二三年九月二〇日

杖の柄で枝引き寄せて柘榴採る	はく子
赤とんぼ座布団干せる大師茶屋	なつき
登り来て霧に包まる登山バス	宏 虎
海峡を潮の急きゆく果ての秋	素 秀
数独のミス繰り返す夜長かな	こすもす
秋風や拍手まばらな大道芸	む べ
虫集く窓辺に寢床しつらへり	む べ
萩日和試歩の杖引く音かろし	はく子
苑統ぶる大樹に寄れば蔭涼し	わかば
露けしや草にまみれし酒地蔵	宏 虎
夕潮のふくらみて鯛はねにけり	素 秀
ガード下暗き溝より昼の虫	ぽんこ
谷風にうねりやまずや萩の花	愛 正
鐘楼の前にハーレー秋遍路	なつき
傘立てに亡夫の杖や虫集く	はく子

毎週句会秀句・みのもる選・二〇二三年九月二一日